

中京女子大学

同窓会ニュース

1980・9・1 No.1

■発行 中京女子大学同窓会

〒474 愛知県大府市横根町名高山55

TEL 0562-46-1291

目	次
会長あいさつ.....1	大学の紹介.....5
同窓会ニュース発刊によせて.....2	同窓会活動状況.....8
同窓会誌発刊によせて.....2	第3回同窓会総会日程決定.....10
体育と家政の新たな結合の可能性.....3	編集後記.....10
同窓会ニュース発行にあたり.....4	

会長あいさつ

高橋千代子

会員の皆様、ご機嫌よくお過ごしでしょうか。中京女子大学同窓会が発足いたしましたのは、つい昨日のように思われますが、はや3年となり、やっと一人歩き出来るようになりました。また、ここに第1回の同窓会機関紙を発行する運びとなりましたことは、会員といたしましてこの上ないよろこびでございます。これ一重に学長先生をはじめ、学園の皆様方、学内同窓の方々のなみなみならぬご支援とご協力によるものだと存じます。あわせて事務局の方にはお忙しいなかでのご準備本当にありがとうございました。紙上をお借り致しまして心よりお礼申し上げます。

学園も特色ある教育のもとで中京の地、いや全国に名をあげてまいりましたことは誠によるこぼしいことでございます。第2回総会には、若々しい会員がお集り下さいまして行末頼もしく感じられました。



これからは、同窓会をより一段と発展させるために、若い同窓生の方々が原動力となり、同窓会活動をおし進めていただきたいと希望いたします。どうか同窓の皆様、同じ母体から巣立ったもの同志、しっかり手を取り合って、母校の発展と同窓会の隆盛に努力しようではありませんか。第1回機関紙の発行にあたり、一言ごあいさつ申し上げます。どうぞ皆様ご機嫌よくお過ごし下さいませ。

同窓会ニュース発行によせて

学長 谷岡 太郎



本学は、創立以来77年の古い歴史のなかで、数多くの優れた卒業生を社会に送り出し、その活躍はめざましいものがあります。このたび中京女子大学同窓会ニュースが発刊される運びとなり、より一層の発展を期待していますので、大学の役割と教育の原点について、常に考えていることを、述べてみたいと思います。

日本の高校生の大学進学率が、40%に近づき大学の“大衆化”が、さまざまな形であらわれるなかで“大学とは何か”を問なおそうという気運が、ふたたび高まりつつあるように思います。

大学において、ほんとうに学ぶことは、「何のために自分は生まれてきたのか」、また、それ故「何をすればよいのか」ということであり、そして苦しみや悲しみに耐えることを知り、その中でほんとうの優しさや、人への思いやりの心を知ることだと考えます。これらの基本的な人格形成の姿は、同じ年令層の団体生活の中でしか鍛えられない、訓練できないという要素もっています。つまり人間として社会性をみがく場がそこにあり、大学がそのあるべき場として期待されるわけです。

中京女子大学は、中等教育の教員養成については大正の初期からすでに70年の歴史を持つ大学です。戦後も他に先んじて、小学校と幼稚園の教員養成課程を加え、この伝統はますますゆるぎないものになりました。公私立を問わず、日本の各段階の学校に、すぐれた婦人教師を送り出すという任務は、この大学の根本的な存在意義であって、今後もこれを堅持し、磨きをかけねばならないものだと考^えます。しかし、年々多様化する社会の要求にこたえて、教育以外の各分野にも有為な人材を送らねばなりません。そのためには、職業と直結した技術や資格取得にだけ目を奪われるのではなく、幅広い教養や、豊かな人間性を備えた“人間”を育てるということを正面に据えて、大学本来の専門教育の本流をいっそう充実させる必要があります。

本学では、創設者の建学理念を発展的に受け継ぎいつの時代にも対応できる“女性の自立”という精神を教学の基本に据えました。中京女子大学は、この理念に基づいて、女性の豊かな未来を託する人びとのたゆまぬ切磋琢磨により、すぐれた研鑽の場でありたいというのが、私の念願するところです。同窓会ニュース発刊にあたり、所信をのべて挨拶に代えます。

同窓会誌発刊によせて

体育学部長 堀本 宏



爽やかな新秋の頃となりました。同窓会員の皆様

お元気ですか。

中京女子大学および中京女子大学短期大学の同窓会が“なでしこ会”から分離独立するにあたっては色々と紆余曲折があったと聞いております。しかし、この問題も円満に解決して、昭和52年2月に中京女子大学および中京女子大学短期大学の同窓会がスタートしてから3年余りが経ちました。この間役員の皆様の努力により、着実に基礎固めがすすみこのたび、同窓会ニュース第1刊が発行されるにいたしましたことは、まことにご同慶のいたりと存じます。

本学は、昭和51年2月、前理事長夫人の不始末により、学園創設以来未曾有の危機に直面いたしました。さいわい、新理事長や同窓の先輩の方々をはじめ、多くの人達の暖かいご理解とご支援に支えられ教職員、学生が力を合わせて努力した甲斐があって今、新しい時代の要請に応え得る大学づくりを目指して力強く踏み出しております。

本学ではいま、学園創設者故内木玉枝先生の建学の精神を発展的に継承し、“女性の自立”を教学の基本理念に据え、経済的のみならず、自から考え自から行動することのできる女性指導者の養成を目指しています。

しかしながら、大学に対する社会的評価は大学に居る者の力だけでできるものでないことは明白です。目まぐるしく変動する現代社会の中で、大学の機能もますます多様化してきています。このような状況の中で新しい時代に即応した大学づくりは今後とも多くの問題を解決していかなければなりません。先輩諸姉の一層のご協力をおねがいします。

また、大学・短大の同窓会充実のためには、同窓会名簿の作成が基礎的な作業として必要であると考えます。是非共同同窓会名簿の編集が会員全員の協力によってすすめられることを期待しています。さらに、分離独立したとはいえ、同じ学園の同窓会組織として“なでしこ会”との協力関係を保ちながら大学発展のためにご協力いただけますようお願いいたします。

おわりに、大学同窓会の今後の一層の発展充実を期待して発刊のご挨拶といたします。



体育と家政の 新たな結合の可能性

家政学部長 高 森 充



本学の前身はよく知られているように、内木玉枝先生によって、中京裁縫女学校として創設されたわけです。その後、こんにちからみて、誠に早い時期に、女性の自立、社会的地位の向上をめざして、つまりすぐれた先見性をもって体育と家政の結合を考えていたといえます。

'60年代の日本の大学拡張期に本学は必ずしも時流に乗ることができなかつたし、特に家政学の再生や新たな編成に遅れをとった点もいなません。しかし、'80年代に入って、日本の家庭問題や社会問題を考えてみますと、体育と家政の新たな結びつきと再生の必要性が痛感されます。私はその理由を次のように要約したいと思います。

1. 環境問題を含めて、不健康からの脱出、家庭も社会も身心ともに健康な生活へのニーズがあること。
2. 核家族化の進行と同時に、高齢化社会への移行期に当って、特に女性の生き方が大きな問題となってきたこと——子育ての終わった家庭婦人にとって特に中高年期の生き方が大変難しく、逆にその過ごし方によっては昔では思いもよらなかつた可能性と将来性が開かれていること。

従って、

3. 職業生活や家庭生活を含めて、今後益々、様々な学習要求が、社会的にも個人的にも増大する

と思われること。つまり、複雑かつ高度化してゆく社会生活、長寿化の中で生涯教育（生涯学習）の必要性が益々増大することでしょう。

このように考えてきますと、短大ないしは大学時代でもって修学が終るのではなく、むしろそれは一つの初まりでもあり、生涯教育の基礎づくりであったとも言えます。そうすると、同じ学窓に学んだということのつながりを利用し、同窓会も生涯学習の一つの場としてとらえられることもできるかと思えます。

その意味で本学同窓会が今後、例えば大学の行う公開講座や研究会活動その他に同窓生の皆さんの参加を得たり、研修やリクリエーションなどの機会を提供できるようになるとよいと思います。そのためにも今後益々、同窓の皆様の結びつきを強くし、後輩へのはげましと援助をお願いすると共に、健康で明るい人生をきりひらいてゆかれるよう心から念願致します。

同窓会ニュース発行にあたり

副会長 石川 八重

会員のみなさまがたには、ますますご清栄のこととお喜び申し上げます。このたび中京女子大学同窓会ニュース発行の機会を得ることができましたことを、みなさまがたとともに喜びにたえません。

さて、「中京女子大学同窓会」が発足いたしましたのは、昭和53年2月、それまでは「内木学園なでしこ同窓会」の一部門でありましたが、当時の在學生「昭和52年度卒業生」の強力な意志と熱意により、昭和52年6月「中京女子大学同窓会」を発足させるべく、第1回中京女子大学同窓会「仮称」設立準備委員会を開催し、以後数回の準備委員会を開くなかで、膨大な卒業生数、住所録が不明確、財政面の弱さ、作業人員の不足等々、あらゆる困難に直面しながらも、大学当局の温かいご支援と多大なご援助や

さらに在學生、ならびに卒業生のお力強いご協力をもって、昭和53年2月「中京女子大学同窓会」設立総会を開催するに至りました。当日は、大勢の卒業生のみなさまがたが遠隔地よりご出席くださり「中京女子大学同窓会」が承認され発足の喜びは、いまだ脳裏から離れません。また、設立総会には、谷岡太郎学長をはじめ、数多くの先生方のご出席をいただき、学長より同窓会発足のお祝いの言葉、大学の教学面はもとより、将来計画「施設、設備等」等の積極的な姿勢を示めしていただき、母校が発展していくことを、卒業生として力強く感じました。それと同時に、卒業して離ればなれになった我々も、同窓生として結集させ協力することで、大いに母校の発展につながるということを再度改にかみしめた次第です。しかし、「中京女子大学同窓会」の現状としましては、活動を支えるにも弱体な財政面をはじめとして、数多くの困難があり、発足以来3年間、2回の総会を開催したにすぎず、目立った活動ができない現状であります。しかし、今回の中京女子大学同窓会ニュース発行を契機として、会員のみなさまに母校の近況をお知らせすることを第1の足がかりとして、みなさまがたのお力を結集し、前向きに取り組み母校の発展におしみない力を載きたいと思えます。中京女子大学同窓会発足当時の困難、感激を再度脳裏に、役員一同微力ではありますが、今後の活動にとりくんでいきたいと考えております。会員のみなさまがたの今後のご協力をお願い申し上げます。



大学の紹介

学長紹介

『女性の自立』を教学の基本理念にすえて 谷岡太郎学長 昭和51年8月就任

現学長は、創設者の建学の精神を発展的に受け継がれ“女性の自立”という理念を教学の基礎に据え中京女子大学は、この理念に女性のゆたかな未来を託する人びとのすぐれた研鑽の場でありたいと希望されております。

女性として、人間として生きる目的を追求するとき、そこには「自己完成」こそ究極の目標であります。我々女性が等しく「専門的知識・技能を生かした職業をもち」、加えて「自分の意見を持った自立」した社会の成員であるためには、どこにいても存在価値のある有能な人間となるべく自己研鑽が必要であります。

中京女子大学が時代の要求と普遍性に合致した『女性の自立』を教学の基本理念に据え、人間的で全人格的な、トータルな能力を持った女性の育成のために、存在価値のある私学を目ざしている現実を見守り、我々同窓生もこの理念を継承して、女性として人間として、自己完成をめざし、充実したみのり豊かな人生を歩もうではありませんか。

昭和54年度新任者紹介

金原 勇：客員教授（体育運動方法）

前筑波大学教授

専攻一体力論・トレーニング論

水谷 一：教授（英語）

前名古屋短期大学

専攻一英語学

守能信次：助教授（体育社会学）

東京大学大学院修士課程修了

専攻一野外体育・レクリエーション

加藤恒男：講師（哲学）

名古屋大学大学院博士課程修了

専攻一哲学

林 親男：講師（経済学）

同志社大学大学院博士課程修了

専攻一経営経済学

水谷 博：講師（健康管理）

東京教育大学大学院修士課程修了

専攻一学校保健

昭和55年度新任者紹介

伊藤康子：助教授（歴史学）

前日本福祉大学

専攻一歴史学

神谷昭典：教授（公衆衛生学）

前名古屋大学助教授

専攻一公衆衛生学

高橋正五郎：教授（体育管理学）

前愛知県立看護短期大学教授

専攻一体育行政

高橋美代子：助教授

前聖徳学園女子短期大学講師

専攻一児童文化

百々康治：講師（教育学）

前岡崎女子短期大学非常勤講師

専攻一教育方法

短期大学部家政学科 伊藤康子(助教授)

同窓会ニュースの誕生、おめでとうございます。

同窓会のみなさまと私とは、多分一度もおあいしたことがない——つまり私は1980年度の中京女子大フレッシュウーマンです。会報同様、末永くよろしく願いたします。

明治38年のむかしから、本学の建学の精神に「女性の自立」が掲げられていたと知った時は、ほんとうにびっくりしました。数年前からはやり出したように思われているこの言葉が4分の3世紀も生き続けてきた学校。内木玉枝先生は二言目には「女性の自立」とおっしゃったとか。日常的に生きていたこの言葉は、今同窓会のみなさまの胸のなかでは、どう生命を燃やし続けているのでしょうか。

中京女子大学の学生との交流であらためて驚くことは、先生になりたい！と熱い希望をもって入学してきた学生の多いこと、したがって一生の仕事で自分のものにしたい、子どもが生まれても働き続けたい、と考えていることです。今でも、たとえ働いて収入があっても、重要な問題になると「主人にきいてから」と逃げをうつ、つまり社会的に甘えた女性が多い残念な現実があちこちにみられるのですが将来の希望のなかでとはいえ、自分の人生を自分できめようとしている、学生の無限の可能性を嬉しく思っています。

女性の暮しにくい現実の荒波で、この夢が砕け散ってしまわないように、荒波をのりこえ、遠くまで泳ぎきる実力と賢さを、この学園で身につけてほしい、と願っています。

といって、学生にはもうひとつピンとこないようです。同窓会のみなさまが、社会人としての具体的な経験、主婦としての想いを後輩に伝えてくださったら——。そんな「教材」になる会報になっていただけませんか。

旧友の交流も、結婚・出産・子ばなれ、就職・退職の情報も、「女性の自立」を考えなおすチャンスをやたかにすることでしょう。さまざまなふくらみを持って、本会報のご発展を！

学部・学科の特徴

体育学部 体育学科

- 取得できる資格についての変更はない。
- 現代社会の要請に応える体育指導者を育てる。

家政学部 児童学科

- 児童教育専攻コースがもうけられ、取得できる資格は、小学校教諭1級免許状と幼稚園教諭1級普通免許状。
- 児童学専攻コースでは、社会教育主事である。
- 子どもたちとともに学び成長する保育者・教師を育てる。

家政学部 食品・栄養学科

- 取得できる資格が従来より3つ増加した。
管理栄養士国家試験受験資格、食品衛生監視員資格、食品衛生管理者資格。
- 徹底した個別指導で食生活を総合的に科学する。

短期大学部 体育科

- 取得できる資格についての変更はない。

- 現代社会の要請に応える社会体育の指導者をめざしている。

短期大学部 家政学科

- 取得できる資格については変更はない。
- 被服コースと食物コースとの二つの専攻に分かれて家政学の専門知識を深めるのをねらいとしている
- いつでもどこでも役立つ新しいタイプの女性像を求めている。

総合科目の目的

総合科目は、一般教育の趣旨を達成することを目的として開講されています。

第1の特徴は、従来の一般教育科目にみられる社会・人文・自然という三領域区分にとらわれない総合的視点を強調している。

第2の特徴は、具体的なテーマを設定し、それに対する三領域からの科学的アプローチをめざしている。第3の特徴は、現代社会が鋭く提起している諸課題に、対決できる総合的な認識を備えた主体の形成をめざしている。

就職状況について

就職戦線では特に女子の4年生大学卒業者は門戸が狭い現状ではありますが、本学の最近の就職状況を就職指導室にたずねてみました。

在学中に学んだ専門知識や教養を充分生かす事のできる就職あっせんをたえず目標としています。

教員希望者が多い本学では、各都道府県の採用試験の状況、あるいは筆記・面接試験等のデーターを豊富に集め、徹底した事前指導が成果をあげ、例年多くの合格者を出しています。また最近、社会体育をはじめ教員以外の職種の求人も多く、就職の幅は急速にひろがってきております。

体育学部体育学科では、教員44%・社会体育指導33%・公務員7%

家政学部児童学科では教員68%・公務員5%・一般事務23%

家政学部食品・栄養学科では教員20%・栄養士33%・公務員7%・一般事務29%

短期大学部体育学科では教員10%・社会体育指導49%・公務員5%・一般事務31%

短期大学部家政学科では一般事務75%・教員、公務員、社会体育指導合せて8%という状況です。

(このデーターは過去3年間の調査資料による)

新1000号館の建設

昭和53年4月に新1000号館の工事が着工され、同年9月には、1階部分の新体育館が完成されました。この第2体育館は、体操競技、新体操、ダンス等球技以外の専用体育館として使用され、館内には演技が一見して観察できる鏡壁が設置されています。また、体操競技での着地の際の事故を防止するために衝撃緩和設備(ピット)が施され、安全かつ機能的な体育施設として利用されています。この新体育館完成を記念して同窓会からは、グランドピアノを寄贈いたしました。また、2～3階は300名収容可能な合同講義室(階段教室)が完成され、空調設備の完備した快適な講義室として、環境整備がされています。

その他、和室改装、1000号館1階の和室を大改装し、和室(10畳)4部屋、茶室、調理室、浴室等完備。合宿、会議、茶華道の稽古に使用しています。

△階上グランド整備

全面の土入れ替えを行ない。弾力性のあるトラックになり、コースラインも入りました。

△体育館床の整備

床全面を削り、表面の樹脂加工をしました。

△学生ホールの整備

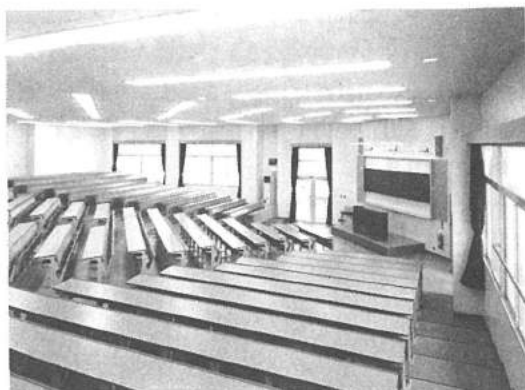
学生ホールも一部増築を行ない、広く明るい憩いの場となっています。

以上は、主な施設、設備の建設拡充の標様を紹介しましたが、大学も設備面でも次第に充実しております。

★1000号館



★階段教室



★第2体育館



★学 寮



年次的に学生数が増加している現在、新学寮が竣工されたことを紹介いたします。

建設場所は第一寮の横、かつての集団給食室を取りこわしその跡地に建設されました。完成した第二学生寮の規模は、1室3名収容で37室。そのほかに

研修会や集会のための和室、スポーツ、勉学の疲れを癒すための休憩室。そして学生ホールなどが設けられています。これによって本学キャンパスには、第一、第二の2つの学寮ができ、収容人数は231人になりました。それだけに、いま学生たちには、寮生活における自治能力をさらに高めていくことが求められております。

ヨーロッパ研修旅行

15日間の日程でヨーロッパの研修旅行が2年前より企画され、多勢の希望者が毎年参加している。

ヨーロッパ研修旅行で“何をどう見るか”を学生は自分の目でとらえてきたと思います。古い歴史、徹底している都市の公共性の観念等……。

今回はこれにくわえて、幼稚園、小学校の施設見学、保育、授業参観等がおりこまれた。

[コース] コペンハーゲン→ウィーン→ザルツブルク→ミュンヘン→ローデンプルグ→ハイデルベルク→パリ→ロンドン

同窓会活動状況

昭和52年度活動状況

○6月19日(日) 第1回中京女子大学同窓会設立発起人会開催 場所：大学会議室 1:00～4:00 ①学長あいさつ、②経過報告、③設立趣意書案について、④準備委員の選出。

○8月1日 第1回同窓会準備委員会

議題：①規約、趣意書について、②事業計画案。

○8月28日・9月19日 学内準備委員会

発起人名簿作成、事業計画、運営機構、小委員会等

○9月23日 第2回発起人会、第2回準備委員会

報告事項：準備委員会経過報告及び会計報告、学生オブザーバーの承認。(発起人会を実行委員会の名称に変更)

議題：事業計画案一名簿収集、設立総会開催日程等、運営機構、その他。

各種委員会の発足—財政委員会、将来検討委員会

設立総会準備委員会、名簿作成委員会、オブザーバー
○9月29日・10月7日・10月18日・10月21日・10月31日 各種委員会

予算案、活動日程検討

○11月13日 第3回準備委員会

各種委員会報告、議題：会計必要経費について

○11月23日 第2回実行委員会

①各種委員会の経過報告、②役員を選出について

昭和53年度活動状況

○1月21日 第3回実行委員会

①返信ハガキの出欠者状況報告、②会計案について

○2月4日 第3回実行委員会

現在の出欠、委任状等についての報告

議題：設立総会議事進行に関して

○2月12日 中京女子大学同窓会設立総会 11:00～15:00

式次第：開会のことば、実行委員長のあいさつ、学長あいさつ、学監あいさつ、経過報告。

第1回中京女子大学同窓会

議案：①会則案について、②役員選出、③事業計画予定、④新役員紹介、⑤会長あいさつ、⑥感謝状贈呈、⑦学園協力について、⑧記念撮影・アトラクション

○9月7日 同窓会役員会

①運営のあり方、②名簿作成、③新体育館完成にともなう同窓会からのピアノ寄付等について

○9月12日・9月16日 学内役員会

①学内組織の充実、作業分担、②基本的活動費、③名簿整理、個票作成について

昭和54年度活動状況

○12月1日 学内役員会

①名簿づくりについて、②新入会員について、③54年度同窓会総会、④ピアノ購入の件、⑤なでしこ同窓会とのかわり。



昭和55年度活動状況

○ 1月7日 同窓会役員会

議題：①名簿作成・はがきの宛名書きについて、②総会の内容について、③審議事項（役員の改選・ピアノの件につき説明と了解を得る。会計報告・事業計画）

○ 2月10日(日) 10:00～ 同窓会役員会

第2回同窓会総会出席者数状況報告

審議事項：総会の式次第、新役員、総会当日までの作業分担および当日の作業分担。

○ 2月24日(日) 第2回中京女子大学同窓会総会

場所：第1会議室 13:00～15:00

①同窓会長のあいさつ、②来賓のあいさつ、③総会（第1回総会から現在までの経過報告、大学へ記念品贈呈〈ピアノ〉に関する経過報告、会計報告、役員改選）、④新役員紹介、⑤会長あいさつ

○ 2月28日 同窓会役員会

昭和55年度の活動方針：①同窓会ニュース第1号発行について、②会費未納者について、③大学での同窓会のあり方、④なでしこ同窓会との話し合い、⑤54年度卒業生への記念品、⑥55年度会計予算案作成

○ 3月23日 11:00～14:00

なでしこ同窓会役員と大学同窓会役員との会合

議題：①昭和27年以前の卒業生の大学同窓会への吸収について、②高校同窓会と大学同窓会の運営機関を置く、③大学同窓会の独立について。

○ 4月18日 同窓会役員会

①なでしこ同窓会会長に大学同窓会へ27年度以前の卒業生を含むことについて話し合い結果を報告、大学事務局への同窓会活動の事務レベルでの協力方について要望、③同窓会より事務局への要望について検討、③同窓会ニュース発行について

○ 4月25日 同窓会役員会

議題：①大学事務局に対する要望と方向づけ、②同窓会ニュース案

○ 5月9日 同窓会役員会

議題：①大学事務局への話し合い意見統一、②同窓会の規約案(弔規定)、③同窓会ニュースの原稿依頼等について

○ 5月23日 同窓会役員会

①会計報告および運営方法について、②高校同窓会総会報告、③同窓会ニュースの原稿依頼について

の報告、④同窓会長との話し合い。

○ 5月30日 同窓会役員会

報告：①同窓会からの要望書を事務局長に提出、②同窓会ニュース原稿依頼、③高校同窓会長との話し合い、④大学同窓会総会開催日11月9日(日)に決定、⑤同窓会ニュース発行計画、⑥同窓会名簿希望者の配布方法、事務局との話し合い日程調整、⑧総会の件について学生自治会と今後の調整

○ 6月6日 同窓会役員会(準役員を含む)

①現在までの活動報告、②昭和55年度の活動方針案提出、③55年度同窓会総会のための話し合い、④昭和27年以前の卒業生調査。

卒業年度と卒業生数

卒業年度	学 部 ・ 学 科 別				
	短大体育	短大家政	体育学科	児童学科	飼・養科
昭和26	8	5			
27	14	19			
28	19	30			
29	16	28			
30	38	33			
31	53	41			
32	68	42			
33	57	31			
34	32	45			
35	26	66			
36	29	95			
37	27	102			
38	39	91			
39	47	75			
40	54	52			
41	83	147	2		
42	80	213	21		
43	68	168	22	10	17
44	57	88	51	42	45
45	46	60	38	39	49
46	37	44	35	19	33
47	46	44	31	15	22
48	50	30	43	43	15
49	43	48	44	45	15
50	44	57	42	52	12
51	54	92	46	56	18
52	59	42	54	95	28
53	58	97	66	106	31
54	72	73	91	104	23
計	1,324	1,958	586	626	288

新入会員への呼びかけ

大学独自の同窓会として発足し、早や3年を経過しましたが、卒業生数約5,000名のうち現在同窓会会員数は60%弱の3,000名であります。

今後同窓会活動をより活発におこなってゆくためには、卒業生全員が入会し、財政基盤を確立させたいと願っております。卒業生の皆さんがお互いに連絡をとりあって入会を呼びかけあい、母校の発展と同窓生の親睦をはかりつつ、同窓会活動をもりあげたいと願っております。

★第2回同窓会総会が盛大に行なわれた



第3回同窓会総会日程決定

*日 時 昭和55年11月9日(日)

午前11時～12時

*場 所 中京女子大学内

今回は、大学祭期間中(11月6日～9日)に総会を企画いたしました。在学生の活動の様子を見ていただく良い機会と思います。今回は、ご出席のご案内などは、この同窓会ニュースでかえさせていただきますと存じます。みなさまがたの多数のご出席をいただき第3回総会を、盛大に成立させていただきたく、お待ちいたしております。その他の企画として児童学会主催の講演、吉岡たすく氏をお迎えして講演の予定です。

編集後記

新役員決定する

会 長	高 橋 千代子
副会長	石 川 八 重 ・ 溝 口 百合子
書 記	中 野 千鶴子 ・ 服 部 康 子
会 計	河 合 き く ・ 三 宅 美代子
監 事	戸 谷 典 子 ・ 岡 田 映 子

同窓会活動の発展をねがって、ここに第1号の「中京女子大学同窓会ニュース」をお届けいたします。

同窓生の声の広場として、今後は皆さんのご意見やご希望を反映させ、充実した紙面にいたしたいと考えております。

発刊によせて原稿をお寄せくださいました諸先生方をはじめ、関係者の皆さんに、心からお礼申し上げます。

(C・N)